

市長と地域のランチミーティング

1月31日(金)カラトピア5F会議室で、12時より前田市長を交え、お弁当を食べながら親しく懇談しました。当まち協より、林会長初め、事務局・各部会の代表者1名ずつ参加しました。まずは総務部作成の本年度の活動画像の動画をスクリーンで見せて頂き、各部会より順に、部会活動への熱き思いを語りました。



(田中) ふれあい農園は、子供達に食べ物があることを伝えたい。ペットボトルツリーは、自分達の手を使って体験して欲しいという思いです。

(市長) 教育の一環として、町の中心部で取り組んでおられる事に意味があると思います。

(寺尾) 子供達の心づくり、感性でのまちづくりを育てる為、将来のきっかけづくりをしています。ふるさとの景色をしっかり見て欲しいと願っています。

(市長) 歴史文化・忘れてはいけない事を、子供達に伝えていく事は大事です。

(野村) 地域の方は、防災について関心はありますが知識はありません。

実際に訓練して、体験する事がテーマです。

(市長) 地域からも、防災について、市に提案をして欲しいと思います。

(延谷) 誰もが、健康で安全・安心に生活出来るよう活動しています。高齢者から子供まで、皆で集う居場所づくりが基本です。

(市長) 地域の人を知る事が、大変な時代になりました。まずは、声を掛け合う事が大事です。

(尾辻) HP・SNSでの発信、広報紙の発行などで、当まち協のイメージアップの活動をしています。まち協の活動を、いかに浸透していくかが課題です。何をやるのか、誰とやるのが大事です。地域の人との巻き込み方が重要です。

(市長) 広報活動は大事です。目で見、耳で聞いて、幅広くされていますね。

(安田) まち協の事務処理は、かなり複雑で作業が多いです。事務局が、高齢化する事がこれからの課題です。

(市長) 手続きや書類を減らす事が大事です。AI(人工知能)を利用した事務処理を、市役所で検討しています。

昼休みの50分くらいのランチミーティングでしたが、有意義な会合でした。



相浦地区自治協議会を訪問

視察研修として、2月13日(金)長崎県佐世保市の「相浦地区自治協議会」に、中東まち協から11名で訪問しました。相浦自治協から、会長さん初め各部長・事務局・市役所の職員さんを含め16名のお出迎えを頂きました。場所は、相浦自治協の事務所所在地・相浦地区公民館。



相浦地区自治協議会の概要

- ※人口28,217人、世帯数12,465世帯、高齢化率26.7% 高齢化率が低いのは、大学・短大・陸上自衛隊2000名の若者がいる為。(大学2、高校2、中学3、小学校4)
- ※佐世保市「地域コミュニティ推進事業」により、平成29年10月11日設立
- ※構成団体 旧相浦地区連合町内会、青少年健全育成会、PTA・育友会、主任児童委員、老人クラブ連合会、旧連合町内会婦人部等18団体。(旧相浦地区連合町内会を解散して、自治協議会に合流した。)
- ※部会数 7部会

中東まち協と違う点

- ① 連合町内会(自治連合会)並びに9つの団体が解散して合流参加しています。
- ② 連合町内会の会費を引き継いで、会費収入があること。令和元年度予算総額は、約690万円。(内訳)市の補助金353万円・自主財源298万円(町民による会費)・その他、収益事業・防犯協会の補助金など

- ③ 構成団体と一緒に活動していること。
 - ④ チャリティバザー収益金。(一部を福祉協議会に寄付しています。)
- 共通点

- ① 役員の負担が大きく、コーディネーターが少ない。
- ② 役員・構成員の高齢化で、後継者やスタッフの確保が課題。
- ③ 一般の住民の方に、協議会の活動に興味を持ってもらうこと。
- ④ 中学校区独自の活動をしているので、人的・時間的に一緒に活動するのが難しい面もある。

色々参考になりました。当まち協にも良いところは取り入れていきたいと思っています。



赤間神宮と先帝祭

赤間神宮の御祭神は第八十一代安徳天皇であることをご承知の通りです。御祭神にちなむ様々なお祭りが行われますが、最も大切なお祭りは、そう「先帝祭」ですね。

安徳天皇の御命日から三日間に亘り行われ「関の先帝、小倉の祇園、雨が降らねば金が降る」と俗謡にもあるように祭礼日は数十万の人出で賑わい、下関の繁栄は古くからこの先帝祭にあるといわれています。

その由来は壇の浦に平家滅亡の後、中島四郎大夫正則という武士、安徳天皇の御尊骸を奉葬し、やがて刀を捨てて漁師となつてから例年御命日には威儀を正して参拝を続けました。また主人を失った数多の女官上臈達、赤間が関(今の下関)在住の有志に助けられつましい生計を立てる中、先帝御命日を迎える毎に、装いを整え香華を手向けて礼拝を続けました。これが先帝祭上臈参拝の源です。

以来連綿として絶えることなく、今日さらに賑々しく執り行われています。官女に警固、稚児が従い、上臈に禿の従う美しい列立は遠く平安の昔、宮中に行われた五節舞姫の形に倣い、絢爛豪華なる外八文字道中は実に天下の壮観と称えられています。赤間神宮崇敬会を始め舞踊協会、観光協会の御奉仕はもちろん、何より地域の皆様の御尽力あっての先帝祭といえるのではないのでしょうか。

赤間神宮宮司 水野大直



五月三日先帝祭が行われます。東部地区の皆様には、連休でもあり、上臈道中という事で、車・人の多さに御迷惑をおかけしております。

上臈道中は、無形文化財となり、観光協会主導で行っております。赤間神宮境内にての行事は、赤間神宮崇敬会の主催で行われています。募財は、自治会と企業、関係団体と集めさせていただきます。皆様御協力がないとできない祭りであり、本当に感謝しております。

なお、先帝祭行事は五月二日(四日迄あり)です。二日は、平家会を中心のお祭り、三日は上臈道中、四日は御神幸です。中でも四日は、安徳天皇のご遺体(おと)に因み、小門へ御神幸し再び赤間神宮にお帰りになります。

神牛が牛車を引き供奉者一同歩いてお供をしており、最近、狂牛病のため牛が来られなくなり誠に残念です。御神幸祭は、皆さんの街を通ります。どうぞ、その節はお参りをさせていただきますと神様もお喜びと存じます。(文責：佐々木乾二)